

昭和 55 年度 和歌山県名匠

【花 火 師】

はな び し
【 花 火 師 】
やぶ た ぜん いち
藪 田 善 一

【現 住 所】吉備町（現：有田川町）

【生 年】明治 44 年

職 歴

先代は花火の販売に携わっていたが、氏は独学で製造技術を習得し、製造から打上げまで一貫した技術を有する貴重な花火師である。

業 績 の 概 要

花火の要素は、色・光・音であるが、色では紫と黄、光はより明るく、音はより遠くまで響くことを追求するという。

花火は、すべて手作りで、20 工程以上を要するが、製作者は独自の花火作りに苦心する。

花火の種類には、大別して打上花火の割物、曲物、音物及び仕掛花火の組物があるが、色と光は薬品の調具合、音は圧力に関係のある玉張りにあるという。

多くの工程を経た苦心の作品が、ねらいどおり開花することが花火師の喜びであり、最近では、他府県の花火師とも協力して、その腕を競い合い、花火の質的向上に努めている。

昭和 46 年の黒潮国体及び昭和 52 年の第 28 回全国植樹祭の昼花火は、氏の創作したものである。